



でんわ 電話をとるとき、どうして「もしもし」と言うの

ひと こえ 人に声をかけるときは「申し」

いま、「もしもし」ということばは、でんわのとき以外、ほとんど使いません。人に声をかけるときに、おとなひとつか、がっこうなら、どうようなか、学校で習った童謡の中に「もしもしかめよ、かめさんよ」といううたがありますね。

むかしの人は、ひとこえ、人に声をかけるとき「申し」と言っていました。これをくりかえして「もしもし」となったのです。もちろん、でんわにほんはい、まえつか、電話が日本に入ってくる前から使っていたことです。

ハローにかわることばは「申し申し」

さて、アメリカのグラハム・ベルというひとでんわはつめい、それがにほんはい、日本に入ってきたのが、ねんめいじねん、1890年（明治23年）ですから、ねんいじょうまえ、100年以上も前のことです。そのとき、英語で「ハロー」というのをにほんごなんい、かが、日本語で何て言えいいかがいろいろ考えられ、「もしもし」となりました。もう一つのせつ、アメリカでベルのじゆぎょう、りゅうがくせい、授業を受けた留学生が、はじめてでんわ、電話するとき「もしもし」と言ったから、というはなし、話もあります。（監修・保岡 孝之）

